



あしべつ

市議会だより

2022年
2月1日
No.22

芦別市議会ホームページ <http://www.city.ashibetsu.hokkaido.jp/gikaijimu/gikai.html>

昨年11月25日(木)、子ども達の「生の声」を今後の議会運営や教育推進に反映させることを目的に、市内の小中学校4校の児童・生徒代表12名との懇談会「児童・生徒の声を市議会へ」を開催しました。(詳細は2ページをご覧ください。)



議長 動 静

芦別市議会議長

田 森 良 隆

昨年11月11日、東京で開催された第172回全国市議会議長会建設運輸委員会に出席し、国へ要望する自然災害対策、各種交通基盤整備、都市基盤整備、観光施策の推進について協議しました。

12月2日、市長室において、芦別商工会議所坂田会頭並びに役員の皆様から荻原市長に「地域振興・産業経済」、「観光・イベント」、「事業活動」等に関する令和4年度芦別市施策及び予算等への要望書が提出されました。私も同席させていただきました。新型コロナウイルス感染症の影響による芦別の厳しい経済状況を伺いました。

9月30日に緊急事態宣言が解除され会食の人数制限が解除となり、またワクチン接種者数が増えてはいますが、昨年12月の忘年会時期の街の中は閑散としていて、コロナ前のような賑わいはないような状況に感じました。飲食店を始め関連する事業を営まれている方々にとっては、厳しい経営状況が続いているのではないかとお察しするところです。

国は12月の臨時国会で生活支援や経済対策などを盛り込んだ35兆円超の2021年度補正予算が可決されました。国には、少しでも地元芦別が潤うような政策を実施していただくよう期待するところですが、私たちも感染予防対策を行いながら、地域経済の活性化に向け少しずつはあります。社会活動を再開していく必要があります。

以前の様な多くの市民が集まってイベントができるような社会、活気のある芦別に早く戻ってほしいと期待するところがあります。

主な内容

- ◎【特集】児童・生徒の声を市議会へ…………… 2
- ◎12月定例会一般質問…………… 3～7
- ◎12月定例会の議決結果・議会の動き…………… 7
- ◎総務常任委員会学校視察…………… 8
- ◎3月定例会のお知らせ…………… 8

特集 議会懇談会 児童・生徒の声を市議会へ

昨年11月25日、本会議場において、市内小中学校の代表12名と市議会議員とで議員懇談会「児童・生徒の声を市議会へ」を実施しました。

平成30年に芦別高校生と懇談会を実施しましたが、小中学生を対象としたのは初の試みでありました。

懇談会を実施するにあたり、議会改革特別委員会では、昨年5月に市政執行方針、教育行政執行方針で示された市内中学校の統合をテーマとして実施を考えていましたが、芦別のまちづくりの一端と捉え「芦別の『まち』について」、「小学校、中学校での学校生活について」、「高校進学について」をテーマとし、芦別の子どもたちが今何を考え、何を思っているのか、多くの意見やアイデア



を聞きたいという思いで実施しました。

事前に、テーマごとの課題を子どもたちに提示し、各学校に協力いただき意見を取りまとめていただきました。

芦別中学校では、生徒全員にアンケートを実施し集計を行い、結果をもとに生徒会役員が意見をまとめ、上芦別小学校は、6年生にアンケートを実施し集約して懇談会に臨むなど、各学校とも児童会・生徒会の役員の皆さんが中心となり工夫して意見集約に取り組んでいただき、懇談会に参加してくれました。

懇談会当日は、各学校の代表として児童会、生徒会の役員各3名、引率の教諭1名が、市議会開会中に議員が座る席に座って、進行役の小川議会改革特別委員長から指名された後、テーマごとに各学校の代表者に発表していただき、その後、議員から子どもたちの発表に対する感想、意見、質問があり、子どもたちから活発な発言がありました。議員からの質問で参加した12名に芦別高校への進学を希望しているか挙手を求めましたが、一人も手が挙がらないという残念な結果もありました。

本事業の実施にあたり、時間の無一中、ご協力いただいた各学校の校長先生、教頭先生及び担当教諭並びに児童・生徒の皆さんに感謝申し上げます。

児童・生徒からの主な意見

「芦別の『まち』について」

①良いところ…自然がいっぱい。空気がきれい。みんな優しく親切。このまちが好き。②良くないところ…まちに活気がない。大きな店が少なく買物に不便。③どんなまちだったら良いか…活気があって住み続けたいと思うまち。栄えていて商業施設が多く買物に便利なまち。

「小学校、中学校での学校生活について」

①学校の良いところ…いじめがない。挨拶ができる。明るく運動好きな人が多い。挨拶ができる。部活を頑張っている。学年の壁がなくどの学年とも一緒に活動できる。②良くないところ…あまり挨拶をしない。部活がない。校舎が古く、冬寒く夏暑い。校舎が古い。③中学校が統合することになった場合、期待すること・希望すること・気になることは：友達やライバルが増える。今の部活はどうなるのか。制服がどうなるのか。部活や行事が充実する。人間関係・クラス分け・いじめ等が心配。校舎の修繕が必要。学習環境を整えてほしい。不安しがなく、心配なことだらけ。在校生が卒業するまでは学校を残してほしいというのが本音。私たちの意見や要望を取り入れて下さい。

「高校進学について」

①芦別高校を選んだ理由…家から近いから。勉強がわかりやすそうだから。成績次第だから。興味の引くような事があるから。②芦別高校以外を選んだ理由…進学校に行きたい。部活が弱く進学も厳しそう。高校卒業後に志望校への進学や就職ができる学校を選びたい。芦別高校以外の学校への進学を考えている人が多い。③芦別高校がどんな学校だったら入学してみたいと思いますか…授業がわかりやすい。先生が優しくしっかりと指導してくれる。就職や進学がしやすい。



※1 芦別中学校生徒会では、アンケート結果から芦別高校へ進学者が少ない理由として地元なのに芦別高校のことを良く知らないことが原因とし、3年生だけの進路説明会だけでなく、1年生から交流機会があればもっと進路が変わってくるのではないかとという分析結果の説明がありました。

※2 芦別小学校 高山純名さんから「芦別中学校で放課後にサポーター塾が行われているか」「勉強を頑張りたい子どものために市は何かサポーターをしてくれることはあるのか」と質問があり、頑張る人に市は何ができるか、何をしてくれるのかと質問について、議会において荻原市長に質問し、市の考えを今後、高山さんに回答することとしました。

12月定例会一般質問



政風会
林 伸樹 議員

相続等による土地所有権について

質問 相続土地国庫帰属法の施行に伴い、国庫に帰属した土地取得の判断基準について伺う。

答弁 現在、新たに土地を求め、計画はありませんが、今後のコンパクトなまちづくりなどにおいて、国庫に帰属した土地を必要とする場合には、土地利用の円滑化に資するものと考えております。

埋蔵文化財包蔵地について

質問 埋蔵文化財包蔵地における相続税の収納を物納とする場合の適用条件について伺う。

答弁 適用条件に明確な規定や許可基準はなく、物納の申請があれば土地の利用状況の確認調査を行ない、物納財産としての価値があると判断された場合に許可されております。

無電柱化計画について

質問 電柱の倒壊による交通の遮断を防止するための施策の必要性及び無電柱化の取り組みについて

12月定例会市議会では、一般質問が行われ、8名が立ちました。それぞれ要旨を掲載しています。なお、会議録は図書館、市内各コミュニティセンターで閲覧できるほか、市ホームページに掲載しています。

ついで見解を伺う。

答弁 道道芦別砂川線の指定区間について北海道と協議を続けてきた結果、国土交通省が進める「無電柱化推進計画」の対象路線となるよう、現在、北海道が検討を行なっており、明年4月頃には方向性が示される見込みと伺っております。

道路占用許可制度について

質問 一般国道452号(芦別・油谷間)で、緊急搬送経路などの活用としては、道路が狭い場所があり「弥生橋」がそれに該当していると思うが、この区間での道路の幅員について本市の見解を伺う。

答弁 この区間は道路幅が狭く判断され、引き続き、国が推進するサイクルツーリズムによる走行環境の整備などの観点からも、要望を行なってまいりたいと考えております。

公式ユーチューブの活用について

質問 動画制作における傾向分析と市民向け解説動画制作についての見解及び今後の動画制作や発信するテーマに係る創意工夫について伺う。

答弁 傾向分析は動画の再生データにともなっており、

が、行政手続きに関する市民向け解説動画の作成やまちの魅力を高める動画の作成に努めてまいりたいと考えております。また、ご示唆の「星の降る里あしべつ応援大使」には、今後、PR動画の制作や発信について相談させていただくなど、創意工夫を図ってまいりたいと考えております。



公明党
松尾 達矢 議員

桜ヶ丘霊園のバリアフリーについて

質問 霊園の緩やかな下り坂でも高齢者にとつては大変だ。上り側には手すりが付いているが、下り側にも付かないか伺う。

答弁 傾斜地の園路手すりの設置については、来年度に実施いたします。他の場所においても調査、検討し、必要な場合は対応してまいりたいと考えております。

スマホデビュー応援について

質問 情報格差デジタルデバイスが生じないことが大事だ。スマホ講座を受講した方にスマ

ホ購入の補助金を応援できないか伺う。

答弁 スマホ講座などの情報格差対策に引き続き取り組み、スマホの購入意向調査を実施するなどし、その結果を踏まえ、どのような応援が可能なか検討してまいりたいと考えております。

認知症の早期発見について

質問 コロナ禍で人との接触を避け機能テスト「あたまたの健康チェック」を導入できないか伺う。

答弁 「あたまたの健康チェック」は、自宅から電話で受検することができ、結果は本人に通知されるもので、早期発見や関心を持つきっかけになるという点でも有効と考えます。ご提案を機に、他自治体での事例や検査方法についての情報収集、調査を行い、コロナ禍においてどのような対応が可能なか検討を進めてまいります。

AMラジオ放送について

質問 市民の方から自宅でのラジオ放送の電波が悪く聴きづらいとのこと。普通に聴けないものか伺う。

答弁 ラジオ本体を感度の良い方向に向けて窓側に置くことや、枠型アンテナがある場合は、屋外やガラス窓付近に設置することで、受信状況が改善される場合があります。改善されない場合は、ラジオ放送事業者に対し受信状況調査を

依頼し、電波が弱いエリアがある場合には、その解消について放送事業者へ要望してまいりたいと考えております。

三段滝公園トイレについて

質問 人の往来も徐々に回復傾向に向かっている。トイレ再開は待ったなしの感を抱く。その後の進捗状況について伺う。

答弁 北電や国等の関係機関と協議を進めてきた中で、電力供給の見通しが立ったことから、現在公園利用者のため、その再開に向けて準備を進めているところであります。



新星クラブ
大橋 二郎 議員

中学校の統合について

質問 現在までの経緯と説明会の実施経過について伺う。

答弁 3月18日に開催した教育委員会議において、芦別中学校と啓成中学校を統合する方針としました。その後5月の市政執行方針・教育行政執行方針で説明させていただき、6、7、8、10月にそれぞれの学区でPTA役員、保護者、町内会への説明会を開催いたしました。

質問 その際出された保護者や地域からの意見・要望があったのか伺う。

答弁 統合自体への反対意見は合までの期間が短い「子どもたちに配慮した万全の態勢で」といった意見や、「小中一貫校・義務教育学校などの検討」といった提言もいただいたところであります。

要望 一番は当事者である児童・生徒に配慮した進め方である。先日議会が開催した児童・生徒との懇談会で出された意見・要望を伝えるので、丁寧な対応をお願いしたい。

ソーラー発電について

質問 急増している太陽光発電所について、市は事業者や規模などを把握しているのか、それらを規制する法令・条例はあるのか伺う。

答弁 本年10月末現在設置されている太陽光発電施設は、市内18箇所規模は49・5kWから1999kWで7事業者が行っております。規制するものとして、国は事業計画策定ガイドラインにおいて、事業者が自治体が策定する指導要領などを遵守するよう努めるとされており、道内においては8町で関連の条例を制定しております。今後本市も規制に向けた条例を制定する考えについて伺う。

答弁 施設周辺の住民への影響や環境への影響を考慮し、ガイドライン策定に向け取り組んでまいりたいと考えております。

意見

国が進める再生可能エネルギー推進の流れで規制強化が進まない。一方、太陽光パネルに含まれる有毒物質や、売電契約が切れる時期と重なり大量廃棄が見込まれている使用済み太陽光パネルの処理問題が「2040年問題」として惹起しており、それに向けた議論も進んできている。また一部の事業者では、投資目的での建設や売買が行われており、所有者の不透明化が進むと本市においても近い将来問題化することが明白である。早急に規制する条例の制定と、国に対し法整備の要望することを検討し、強い姿勢で対処するようお願いしたい。



新星クラブ
石川 洋一 議員

空き公共施設について

質問 今後の空き公共施設の審査方法における委員会設置と条例の必要性について伺う。

答弁 空き公共施設を利用する事業者を選定する場合には、学識経験者や地域の代表者など第三者を交えて審査することは、選定過

程の透明性確保や専門的な知見を踏まえた判断ができることなどから、望ましい手法であると考えられますが、その必要性も含め、今後の研究課題とさせていただきたいと考えております。

ワクチン接種について

質問 三回目の接種への在庫ワクチンの使用について伺う。

答弁 現在保管している1020回分のワクチンにつきましては、最終有効期限が来年4月末となっておりますので3回目の追加接種に使用は可能となっております。加えて12月14日には、3回目の追加接種分としてファイザー社のワクチン1箱（195バイアル、1170回分）が配送される予定となっております。

アフターコロナにおける集客について

質問 アフターコロナに向けて時代に即した事業の支援補助について伺う。

答弁 コロナ禍にあって、大小企業経営の維持と継続のため、国においては、小規模事業者持続化補助金の低感染リスク型ビジネス枠や、道では飲食事業者等感染防止対策補助金などアフターコロナにも資する多様な補助制度が設けられておりますことから、現在の補助メニューを基本としつつ芦別商工会議所と連携し、相談に応じるとともに

その案内に努めてまいります。

質問 百年記念館の集客に伴う故大林監督の追悼展示会の開催について伺う。

答弁 故大林監督におかれましては、芦別の魅力を広くPRする「星の降る里あしべつ応援大使」として、本市の地域活性化に多大なご貢献をいただき、さらには多くの市民が参加した映画「野のななのか」は全国のみならず世界に発信していただいたところであります。このようなことからご提案いただいた内容を含めて、映画学校関係者と意見交換を進めてまいりたいと考えております。



政風会
北村 真 議員

地域振興について

質問 中小企業振興基本条例制定の必要性について伺う。

答弁 地域経済を守り活性化していくには中小企業の振興が不可欠であり、市民と行政も一体となって取り組んでいくことが必要と考えております。そのための基本理念を共有する手段として条例を制定することも有効な手段であると認識しておりますが、その理念の先にある具体的な施策を定めた企業振興促進

進条例などにより、中小企業と雇

を支援、市民生活を安定させる施策を展開しているほか、中小企業等経営強化法に基づく導入促進基本計画なども策定し、国の制度を活用した

中小企業者への支援を講じてきたところとす。現時点での条例制定の予定はございませんが、芦別商工会議所や市内中小企業者等との意見交換や連携を行う中で、機運の醸成や必要性の認識が高まれば検討してまいりたいと考えております。

質問 中小企業振興基本条例の制定を行わないのではなくて現状、制定するに至っていないという認識なのか伺う。

答弁 全国的に条例制定の経緯をみると、地元の商工会議所等が地元企業の民意の高まりを受けて行政に働きかける経過が多いと認識しております。行政が独りよがり条例を制定することは条例の理念に反すると考えます。現時点では民意の高まりがみられていない状況を考え、予定はしておりませんが、今後意見交換等を行う中で必要性の認識が高まった段階で改めて検討してまいります。

質問 企業振興促進条例や中小企業等経営強化法に基づく導入促進基本計画などを、中小企業振興基本条例にひもづけて活用することは可能か伺う。

答弁 基本理念があって、そのもとに中小企業を支援していくための諸施策を設ける、その責務が自治体にあると基本条例で書き込

むことが多いと認識しております。その意味では可能であります。

質問 経営者の高齢化や働き手不足など、地域経済が疲弊する中で民間主導での機運の醸成が難しい現状であると考え、行政主導での情報提供が必要であるとの意思表示を示す必要があると考えるが認識を伺う。

答弁 情報提供や意見交換を行う機運の醸成を行う働きかけについて、商工会議所や企業振興協議会、企業への戸別訪問を通して情報提供に努めてまいりたいと考えております。

質問 令和3年度の経常収支ベースの歳入及び歳出の収支見通しについて伺う。



市民連合議員団
小川 政憲 議員

令和4年度予算編成方針に関連して

答弁 現計予算に今期定例会に提案をしている、補正予算(第11号)を加えた予算をベースとしつつ、今後見込まれる主な増減要因を加味して推計した経常収支は、歳入が約103億5百万円、歳出が約100億1千6百万円となり、差し引き2億8千9百万円程度歳入が歳出を上回る推計となります。

質問 令和3年度の経常収支ベースの歳入及び歳出の収支見通しについて伺う。

だが、一般会計全体では、事業費

充当一般財源が9千1百万円程度不足することから、トータルでは、1億9千8百万円程度の決算剰余金が生じる見通しとなりました。

再質問 財政収支見通しにおいて、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う経済活動の停滞による収入の減少要因はあるものの、減収予定の普通交付税の真逆の増額(予算対比5億5千2百万円増)交付、企業撤退により落ち込んだ「ふるさと納税寄附金(令和2年度8千8百万円)は3億5千万円を計上、収支見通し示された繰越見込額約2億円を含めると、当初予算対比で10億円程度の増額の見込みとなる。また、歳出ではコロナ禍にあるために各種事業の停止・中止等により減額や執行残となるなど減少傾向にある。一方、9月、12月定例会に行財政改革項目としてこれまで制度廃止されたいくつかの制度を再度実施すべく提案中である。これは財政見通しを得ての対応であると考え、その前に、独自削減策として継続されている「管理職給与の5%削減」措置を廃止すべきと思うが考えを伺う。

再質問 財政収支見通しにおいて、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う経済活動の停滞による収入の減少要因はあるものの、減収予定の普通交付税の真逆の増額(予算対比5億5千2百万円増)交付、企業撤退により落ち込んだ「ふるさと納税寄附金(令和2年度8千8百万円)は3億5千万円を計上、収支見通し示された繰越見込額約2億円を含めると、当初予算対比で10億円程度の増額の見込みとなる。また、歳出ではコロナ禍にあるために各種事業の停止・中止等により減額や執行残となるなど減少傾向にある。一方、9月、12月定例会に行財政改革項目としてこれまで制度廃止されたいくつかの制度を再度実施すべく提案中である。これは財政見通しを得ての対応であると考え、その前に、独自削減策として継続されている「管理職給与の5%削減」措置を廃止すべきと思うが考えを伺う。

再質問 財政収支見通しにおいて、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う経済活動の停滞による収入の減少要因はあるものの、減収予定の普通交付税の真逆の増額(予算対比5億5千2百万円増)交付、企業撤退により落ち込んだ「ふるさと納税寄附金(令和2年度8千8百万円)は3億5千万円を計上、収支見通し示された繰越見込額約2億円を含めると、当初予算対比で10億円程度の増額の見込みとなる。また、歳出ではコロナ禍にあるために各種事業の停止・中止等により減額や執行残となるなど減少傾向にある。一方、9月、12月定例会に行財政改革項目としてこれまで制度廃止されたいくつかの制度を再度実施すべく提案中である。これは財政見通しを得ての対応であると考え、その前に、独自削減策として継続されている「管理職給与の5%削減」措置を廃止すべきと思うが考えを伺う。

再質問 財政収支見通しにおいて、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う経済活動の停滞による収入の減少要因はあるものの、減収予定の普通交付税の真逆の増額(予算対比5億5千2百万円増)交付、企業撤退により落ち込んだ「ふるさと納税寄附金(令和2年度8千8百万円)は3億5千万円を計上、収支見通し示された繰越見込額約2億円を含めると、当初予算対比で10億円程度の増額の見込みとなる。また、歳出ではコロナ禍にあるために各種事業の停止・中止等により減額や執行残となるなど減少傾向にある。一方、9月、12月定例会に行財政改革項目としてこれまで制度廃止されたいくつかの制度を再度実施すべく提案中である。これは財政見通しを得ての対応であると考え、その前に、独自削減策として継続されている「管理職給与の5%削減」措置を廃止すべきと思うが考えを伺う。

再質問 財政収支見通しにおいて、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う経済活動の停滞による収入の減少要因はあるものの、減収予定の普通交付税の真逆の増額(予算対比5億5千2百万円増)交付、企業撤退により落ち込んだ「ふるさと納税寄附金(令和2年度8千8百万円)は3億5千万円を計上、収支見通し示された繰越見込額約2億円を含めると、当初予算対比で10億円程度の増額の見込みとなる。また、歳出ではコロナ禍にあるために各種事業の停止・中止等により減額や執行残となるなど減少傾向にある。一方、9月、12月定例会に行財政改革項目としてこれまで制度廃止されたいくつかの制度を再度実施すべく提案中である。これは財政見通しを得ての対応であると考え、その前に、独自削減策として継続されている「管理職給与の5%削減」措置を廃止すべきと思うが考えを伺う。

再質問 財政収支見通しにおいて、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う経済活動の停滞による収入の減少要因はあるものの、減収予定の普通交付税の真逆の増額(予算対比5億5千2百万円増)交付、企業撤退により落ち込んだ「ふるさと納税寄附金(令和2年度8千8百万円)は3億5千万円を計上、収支見通し示された繰越見込額約2億円を含めると、当初予算対比で10億円程度の増額の見込みとなる。また、歳出ではコロナ禍にあるために各種事業の停止・中止等により減額や執行残となるなど減少傾向にある。一方、9月、12月定例会に行財政改革項目としてこれまで制度廃止されたいくつかの制度を再度実施すべく提案中である。これは財政見通しを得ての対応であると考え、その前に、独自削減策として継続されている「管理職給与の5%削減」措置を廃止すべきと思うが考えを伺う。

答弁 合同墓については、市内の宗教法人が宗教や宗派を問わず納骨が可能な合同墓を平成28年7月に建立されていることから、現在のところ市において建立する考えは持ち合わせておりません。今後の需要動向を見極めつつ、葬送のあり方も含めて研究してまいりたいと考えております。



日本共産党
松井 邦男 議員

18歳と22歳の市民個人情報の自衛隊への提供問題について

質問 毎年、滝川の自衛隊担当者から自衛隊員募集のため住民基本台帳から18歳と22歳の氏名、住所などの個人情報を見直し、転記しているが、その状況を伺う。

答弁 令和元年度は男子88人、女子85人で合計173人。令和2年度は男子79人、女子79人で合計158人。令和3年度の閲覧申請はありません。

質問 本人の同意なしに自衛隊への個人情報提供は、それでは望まない市民への重大な権利侵害ではないか。市の個人情報保護条例で定める個人情報利用停止、消去又は提供の停止請求の権利行使について伺う。

答弁 昨年12月の閣議決定を受け、政府から個人情報提供は特段の問題がないとの通知がされました。市の個人情報保護条例の「法令の定めがあるとき」に該当し、権利侵害にはあたらず、市は紙ベースで提供いたします。個人情報の提供停止請求の権利は防げるものでありません。

要望 18歳と22歳の個人情報を自衛隊に提供したと併せて市の個人情報保護条例により、本人や保護者は情報提供、利用停止等の申立てができることを、市の広報あしべつに掲載し周知をすることがほしい。

認知症対策に関して

質問 聴力が30から69デシベル中・軽度の高齢難聴者を早期発見し、補聴器を装着したら認知症進行の予防ができる。各地では補聴器購入の経済負担の軽減、購入応援の助成事業を実施している。芦別でも高齢者の日常生活用具給付で購入助成や「聴力相談」の機会づくりについて伺う。

答弁 聴覚不安の高齢者の補聴器使用は認知症予防にもつながり、補聴器購入助成は全国的課題と受けとめており、今後国の動向等を注視してまいります。
※この他質疑で、高齢者歯科検診を新年度実施に向け歯科医師会と協議していることが明らかになりました。

学校いじめ等問題について

質問 旭川などでいじめが原因の自殺が相次いでおり、子どもを最優先した人権教育の見地から、自己点検的分析検討をすべきではないか伺う。

答弁 各学校にいじめの未然防止、早期発見、早期対応の取り組みなどの点検を求めたいと考えております。



無所属
若松 市政 議員

コロナ禍での生活困窮者に対する対応

質問 新型コロナウイルス感染症は第5波の流行が収まり、飲食業や観光業などのさまざまな制約を伴う自粛措置が解除されるなど、経済活動が徐々に正常化へと向かっている。しかし、新型コロナウイルスの変異株「オミクロン株」が出現し新たな脅威となっている。この新型コロナウイルス感染症が私たちの生活にどれだけの大きな影響を及ぼしているか、生活に困窮している市民に対し、芦別市としてどのような支援策を打ち出し実行されるのか。また、先日可決した冬季生活支援事業以外の更なる支援策として、「福祉灯油」以外の生活支援策

についての考えを伺う。

答弁 コロナ禍において生活に困窮されている市民への支援として、社会福祉協議会等の関係機関と連携し、国の生活困窮者自立支援制度による相談支援及び住居確保給付金の支給並びに新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金の支給などを行っておりますので、現状、「福祉灯油」以外の生活支援策を実施する考えは持ち合わせておりません。

質問 新年度小・中学校、高校の入学を控えた児童・生徒に対し、何らかの援助はできないものか伺う。

答弁 経済的理由のため就学が困難であると認められる児童・生徒の保護者に対し、就学援助制度の活用が可能であることから、制度を周知し、新入学用品費の入学前早期支給を継続して実施してまいります。現状、新たな援助制度の考えは持ち合わせていないところです。なお、芦別高校への進学者に限定はされますが、入学後の援助制度として修学奨励費助成として10万円分の地域限定商品券を交付し、保護者負担の軽減を図っているところがあります。

将来に向けた芦別市の観光について

質問 自然景観を生かした観光資源を活用することが、市長の政策である「縮充」につながるのではないかと考えを伺う。

12月定例会一般質問・12月定例会の議決結果・議会の動き



答弁 本市にお
れまでも夫婦滝、三
段滝、上金剛山や新
城峠などの自然景観
を観光資源の中心に
据えてきたところで
あり、今後におき
ましても芦別が誇
る「星空」とともに
有意な地域資源とし
て活用してまいり
たいと考えておりま
す。

令和3年12月9日、令和3年第8回市議会（定例会）が招集され、会期を17日までの9日間と定めて、令和3年度補正予算、条例制定・改正などが審議されました。議決結果は以下のとおりです。

■全員賛成の議案

議案名	結果
補正予算	
令和3年度一般会計（第11号）	原案可決
令和3年度一般会計（第12号）	原案可決
令和3年度介護サービス事業特別会計	原案可決
令和3年度市立芦別病院事業会計	原案可決
令和3年度水道事業会計	原案可決
条例制定	
移住定住促進条例	原案可決
国民健康保険条例	原案可決
条例改正	
学校基金条例	原案可決
乳幼児等医療費助成条例等 基金条例	原案可決

議案名	結果
条例改正	
企業振興促進条例	原案可決
子どもセンター条例	原案可決
空家等対策条例	原案可決
条例廃止	
企業誘致委員会条例	原案可決
その他	
令和3年度一般会計補正予算（第10号）の専決処分	承認
公の施設の指定管理者の指定（陶芸センター）	原案可決
し尿収集車の取得	原案可決
意見書	
燃油等の価格高騰対策、国の農業予算や運用変更に関する意見書	原案可決

議会の動き 令和3年11月上旬～令和4年1月下旬

【11月】

- 2日 北海道後期高齢者医療広域連合議会
第2回定例会（札幌市）
- 11日 全国市議会議長会
第172回建設運輸委員会（東京都）
- 15日～16日 総務常任委員会（所管事務調査）
- 17日～18日 社会産業常任委員会
（所管事務調査）
- 25日 議会懇談会
「児童・生徒の声を市議会へ」
- 26日 第7回市議会（臨時会）
- 29日 中空知衛生施設組合議会第2回定例会
（滝川市）
- 〃 滝川地区広域消防事務組合議会
第2回定例会（滝川市）
- 30日 中空知広域市町村圏組合議会
第2回定例会（滝川市）
- 〃 空知教育センター組合議会
第2回定例会（滝川市）
- 〃 石狩川流域下水道組合議会
第2回定例会（滝川市）

【12月】

- 2日 議員会派代表者会議
- 〃 議会運営委員会
- 9日～17日 第8回市議会（定例会）
- 15日 総務常任委員会
- 〃 議員会派代表者会議
- 〃 議会運営委員会
- 16日 社会産業常任委員会
- 〃 議会改革特別委員会
- 17日 議会運営委員会
- 〃 広報広聴委員会

【1月】

- 12日 議員会派代表者会議
- 〃 議会運営委員会
- 18日 第1回市議会（臨時会）
- 〃 広報広聴委員会
- 20日 総務常任委員会
- 〃 全員協議会
- 24日 広報広聴委員会
- 25日 全国市議会議長会
第173回建設運輸委員会（書面会議）

学校視察

総務常任委員会



本年度は例年行っている小・中学校の学校視察だけでなく、新たな試みとして芦別高校への学校視察を行いました。

昨年10月26日（火）の午前に総務常任委員会所属の議員で上芦別小学校と啓成中学校への視察を行い、午後からは議員全員で芦別高校への視察を行いました。

各校とも生徒の授業風景を見学させていただき、学校の取り組みの説明を受け質疑応答を行いました。

質疑応答で、上芦別小学校では児童会の取り組みや地元IT企業と連携について、啓成中学校では芦別高校への進学について、小中一貫教育などについて質問がありました。

今回、芦別高校への学校視察を行うにあたって、道立の学校に対してできる支援策は限られているという



認識のもと、芦別市としても芦別高校へ進学することでのメリットを感じていただけるような施策の充実を図っているところですが、よりニーズに即した対応策を行えるよう、まずは高校側との認識の共有を図るべく学校視察を行うにいたしました。

そのような中で意見交換会では、芦別高校の魅力づくりの取り組みについて、市の施策や高校の特徴のPRについて、また生徒がアルバイトを行うことでの部活動がおろそかになることで、芦別高校の伝統である文武両道の精神が失われてきている現状についてなど、厳しい意見が出る中で芦別高校から丁寧な説明がなされました。

今後も定期的に意見交換会を行うことで、課題解消に向けて一つ道筋をつけられたと認識しております。少しずつでも地元中学生が進学したいと考える芦別高校にしていくことにつなげていきたいと考えております。

3月定例会のお知らせ

- 会期 3月10日(木)～17日(金)
- 日程
 - 10日(木) 本会議（議案の提案）
 - 14日(月) 本会議（代表質問・一般質問）
 - 15日(火) 本会議（一般質問）
 - 16日(水)・17日(木) 常任委員会
 - 18日(金)・22日(火)～24日(木) 予算審査特別委員会
 - 25日(金) 本会議（議案の議決）
- 開会時間 いずれも午前10時から
- ※日程・時間は、議会運営上変更する場合があります

議会をインターネットで生中継

本会議の様子を、動画配信サイトYouTube（ユーチューブ）で生中継いたします。過去に開催された本会議、常任委員会、特別委員会も視聴することができますので、ぜひご覧ください。



「芦別市議会 YouTube チャンネル」

編集後記

本号の特集ページに掲載しております「児童・生徒の声を市議会へ」と題して開催しました議会懇談会ですが、芦別市議会では「わかりやすく、開かれた議会」を目指すとした議会改革に積極的に取り組んでおり、テーマごとに子どもたちの声を聞きたいとの思いや、子ども議会とした議事堂での体験をさせてあげたいなど、さまざまな意見を踏まえ、コロナ禍での感染防止、テーマや開催時間などを含め、学校側と協議し開催することができました。

議事堂での開催ということ、子どもたちからの積極的な発言について不安はありましたが、引率の先生方のサポートにより、子どもたちのしっかりとした発言を聞くことができましたので安心いたしました。

芦別市議会として、今後もできることから取り組んで行く姿勢を見せていくことが、議会として市民の信頼にもつながっていくと考え、議会改革に積極的に取り組む、わかりやすい議会の情報を発信していきたいと考えております。

（林）

芦別市議会広報広聴委員会

- 委員長 樋坂直紀
- 副委員長 松尾達矢
- 委員 大鎌光純、林伸樹、石川洋一、松井邦男、新村充